

令和6年度 第4回 水窪小・中学校運営合同協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月19日（水）13時30分から15時45分まで
ただし、14時30分までは授業参観
- 2 開催場所 水窪小学校 会議室
- 3 出席委員 柳田 温、塩崎 正敏、田中 裕彦、金田 和代、高木 園乃、西岡 小百合
牧内 真美、石本 駿輔、高木 幸代、三石 卓、高木 学、平澤 文江
- 4 欠席委員 山本 功
- 5 学 校 加藤 雅嗣（水窪中校長）、鈴木 成幸（水窪小教頭）、梅田 研（水窪中教頭）
内山 由紀（CS ディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 内山 由紀
- 8 議長の選出
司会から、柳田委員を推挙する旨の発言があり、全員異義なくこれを承認した。

- 9 協議事項
（1）小中学校評価について
（2）学校運営協議会自己評価について
（3）R7年度の学校経営について

10 会議記録

司会の平澤委員から、委員総数13人のうち12人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）前回会議録の確認について

平澤委員より、別紙資料の前回会議録の内容について説明があり、確認した。

<授業参観の感想>

・西浦田楽の発表を聞いた。よく調べられている。当時、お面を24面使っていたが、だいぶ長い間使っていたので、当時の中学校の先生がお面を作られたと思う。子供たちにそういう話が伝わっていないかなと思う。そういう協力をいただいていたという経緯があった。（塩崎委員）

・子供の発表では、京都から持ってきて、当時車もなくて大変だなという話があった。そういう経緯があったのだと思った。（柳田委員）

・京都から持ってきた面は、保存しておいて、常に舞うものをその先生が作った。（園乃委員）

・子供の発表が素晴らしい。人前で発表することが年々上手くなっている。発表の場所が3か所に分かれていたため、全員の発表が聞けなかった。全員の話聞ける形にしてほしい。検討いただきたい。（平澤委員）

・8人の発表を聞いたが、あとは聞けなかった。8人は同じ西浦田楽がテーマだが視点が違っていた。それぞれいい発表をしていた。よく研究しており、堂々と自分の発表をしてくれたという感想をもった。私もよく行っていたが私の知らないことを知っていて、学ぶことができた。個々の発表を聞きたいなと思った。（園乃委員）

・パワーポイントを使って、スライドショーをやっていて、びっくりした。写真が飛び出てきたりして、小学校でもすごいことをできるのだなと思った。パソコンが動かなくなると、わかる子が手助けしていた。(柳田委員)

(2) 小中学校評価について

水窪小教頭、水窪中教頭より、学校評価アンケートについて、良かった点や改善点、いじめに対する取り組みについて説明があった。

・アンケートの方で、小学校では先生の評価があるが、中学校は先生の評価がない。(学委員)

→アンケートを取っている項目が若干違うところがあり、うまく書き表せなかった。(水中教頭)

・小学校の評価の方で、子どもと家族がこのような違うのはいいが、4と6の項目で、先生があまりそう思わないのはどういうことか、わかればと思う。4、6、12の項目が気になった。(学委員)

→フォローできる大人がたくさんいるので、困ったらすぐにアドバイスしてしまったり、待つというところできていなかったりするところもある。できないところが目立ってしまうのかなと思う。6の項目については、振り返ることはできるが、振り返りから次に生かすところが育っていないのかなと思う。育てるために次の目標を立てるが、その部分が達成されていないところの評価かと思う。12の項目は、大人が手を差し伸べているところが多いかなと思う。大人が思う、もう少し早く自分たちで解決してほしい、自分たちで判断して行動してほしいところに手助けしてしまい、自分たちで判断するところまでいっていないのかなと思う。(水小教頭)

・先生方は、一生懸命やっているのに、自分の評価を下げているように感じる。保護者は信頼して先生たちをお願いしているので、「あまりそうは思わない」という回答だと評価を自分で下げているような感じがした。(学委員)

→教師の方も自分が目標を立てる中で、ここまではいっていないところの評価だと思う。(水小教頭)

・もう少し甘く出してもいいかと思う。(学委員)

・正直な先生が多い。アンケート結果は、先生たちも共有されているか。(平澤委員)

→している。(水小教頭)

・先生からしてみれば、10人子供を受けもっていて、そのうち6人ができていないとなれば、ここに数字として表れてきていると思う。家ではできているのに、学校ではできていないとか、そういうところを三者面談等で情報の共有をやっているか。(平澤委員)

→個々にできているところ、できていないところは伝えていると思う。(水小教頭)

→そうでないと、勘違いしたまま卒業してしまうことになる。(平澤委員)

・保護者と職員と児童の差はそのような感じだと思う。親も自分の子だと厳しくなるとって見させてもらった。世の中、米が高いとか、今の若い人たちの所得が追い付いているのか常々思っている。テレビで見たが、コミュニティフリッジというものがある。ヨーロッパやアメリカ、海外でも行っているらしいが、家庭や企業等が、期限が切れていない食品を出す。利用者は登録制になる。草加市の活動らしいが、24時間食べ物を取りに行ける。育ち盛りのお子さんには、どうかなと思った。活動は、商工会青年部の取り組みらしい。(金田委員)

・金田委員と同じように見えている部分だと思うが、都市部に比べて子どもの貧困については、水窪は恵まれていると思っている。食べるものが食べられない子たちは、あまり多くないと認識してい

る。間違えていると活動の内容の見直しをしていかなければならない。今、貧困家庭が増えている。県の方やいろいろなところから食料を活動団体に対して提供してくださる仕組みは、あちこちにある。とりあえず、今は利用していない状況である。前提が間違っていて、小中学校で食べるもので困っている人がいるということであれば、活動の内容を考え直したりできるので、情報を教えていただけるとありがたい。(平澤委員)

・コミュニティフリッジの環境について最終的に言っていたのは、地方へといっても社会や環境が違うから非常に厳しいところがあるのではないかと。大きな場所ならいいが、小さなところに行ったときに個人情報や、それぞれ生活部分が人に見えてしまう、そういう部分も難しいということも言われていた。(塩崎委員)

・食べ物を分けるのは、手間や経費、交通費がかかる。田舎で実際に機能するものは、継続的にやろうと検討を始めると少ないというのも現実としてある。そういう家庭があるということであれば、地域の中で支え合いの仕組みを作っていくことが一番現実的かと思う。(平澤委員)

・中学校の方では、思っていた通りの結果だった。子どもたちは勉強をやっている、親からの目線だと全然やっていない、その通りだなと感じている。(田中委員)

・スマホ等の時間が多いのか。(柳田委員)

→ゲームが多いのかなと思う。(田中委員)

・時間を決めて、何時から何時までとか、親も苦労されていると思う。(柳田委員)

・水窪の子は、中学か高校を卒業した時点で外に出ていって生活するようになる。どの質問項目も大切だと思うが、「自分で判断し行動できる」が強く大切なことだと思う。子どもたちは思うことはできるが、なかなか行動に示せない。時間を見て行動するとか、自分で判断できて、今はこれをやる、ここまではこれを頑張る等、自分で強く思って行動でき、勉強などに取り組みると自信にもつながる。小学校でそういう力がつくと、中学は小学校の生活の積み重ねになっていく。学習する力ができていると中学でも維持できるのかなと思う。自分で判断できる力を育むことをするのは、地域・学校・家庭でもうまくつなげられたらいいなという感想をもった。(幸代委員)

(3) 学校運営協議会自己評価について

水窪小教頭より、学校運営協議会自己評価アンケートについて説明があった。

・小中学校評価アンケートで聞かれている結果を見て、子どものことだが、自分に置き換えたときに、できているかなと考えたら、できている大人はどれくらいいるのだろうと思った。子どもは大人の姿を見ているから、それがそのまま大人の評価ではないかと思う。大人が満たされていたり、大人が元気に活発に活動したりしていることが水窪の子が生き生きすることなのかなと思った。大人が目標にすることが大事かなと思った。自分が頑張りたいなと思った。(牧内委員)

・自分の分と子どもの分と2枚ずつ書くといいかもしれない。(平澤委員)

・字を書くときに、書き順が直らないとか、はねがこうだとかある。グランドデザインを見ると、昔から習っている楷書体、ブロック体、明朝体、絵文字のような文字が混ざっている。平仮名だと字体によって違う字になる。例えば「さ」は、ブロック体だとつながるが、楷書は離れる。習字は楷書で習ったと思う。平仮名の「い」も1画目と2画目がつながっていたり、離れていたりして違う。先

生方が教えるのは、平仮名の「い」は離れて教えるのではないかと思う。漢字の「へん」も字体で違う。学校の教材の字はわからないが、ブロック体、明朝体でやっていたら、子どもは先生の字を信じるのか、こちらの字を信じるのか。教育とグランドデザインの字体が少し違うところについて分かれば教えていただきたい。(学委員)

→子どもたちに教える場合、教科書、デジタル教材、ドリルについても自分たちが習ってきたような楷書体で書いてあるものが多いと思う。グランドデザインは、いろいろな字体が入っていて見にくいかもしれない。こういった文書については、基本は、誰でも読みやすいユニバーサルデザインとして、ゴシック体が推奨されている。グランドデザインでは、「学習指導要領」と書いてある字が推奨されている文字になる。識字的に見やすい文字になっているので、こちらからいろいろ出す文書はこういった文字が多くなってきている。授業では、楷書体で教えて指導している。グランドデザインは、見やすさで字体を変えているので逆に気になるようになってしまったと思う。(水小教頭)

(4) R7年度の学校経営について

令和7年度の学校経営について、水窪中校長より説明があった。

報告・連絡事項

- ・水窪小教頭、水窪中教頭より、令和7年度年間行事予定について説明があった。
- ・卒業式、入学式の来賓について、水窪小教頭より説明があった。

<全体を通して意見・感想>

・前回、これからの活動の提案用紙を配ったが、用紙が集まっていないということだったので、無しにしようかと思う。学校から要請があれば参加する形でお願いしたい。(柳田委員)

→活動で来た折に、こういうこともできるという話は聞いている。紙に書くことが苦手かもしれないので、先生に伝える等、引き続きお願いしたい。(平澤委員)

<学校支援コーディネーターより>

・子ども教室では、昨年度より5・6年生を対象にしたパソコン部活を行っている。2学期にRPGゲーム「はじまりの村」をイメージした作品を作った。マイクラフト内のコマンドというプログラミングで仕掛けを施してあるワールドを保護者に見ていただこうと用意してある。中学生ボランティアの子がコーチとなり、水曜日に来て指導してくれた。関心があれば立ち寄ってほしい。ゲームをやるなら、活動として何かできるといいなと行った。みんなで計画して今日に向けて実行できた。できている部分を見ていただけたらと思う。(平澤委員)